

令和6年度 支えあいのまちづくり協議体 情報交換会議事録

「支えあいのまちづくり協議体」は、中央区在住・在勤者ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合うことを目的に、令和2年度より京橋・日本橋・月島の3地域ごとに話し合いを重ねています。今回、各地域のこれまでの議論や取り組みを共有することによる今後の取り組みの推進と、顔の見える関係づくりを図るため、3地域合同の情報交換会を実施しました。

1. 実施日時

令和6年11月21日（木）10:00~12:30

2. 出席者

- ・3地域の支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）
リーダー・サブリーダー 6名（各地域2名ずつ）
協議体メンバー 3名（各地域1名ずつ）
- ・第1層生活支援コーディネーター 1名
- ・第2層生活支援コーディネーター 6名
（陪席） 高齢者福祉課高齢者活動支援係 2名

3. 内容

- ・出席者紹介
- ・各地域でのこれまでの取組報告（各資料参照）
- ・質疑応答
- ・グループに分かれて意見交換

4. 概要

- ・各地域にはそれぞれの特徴がある一方で、どの地域もマンションの増加に伴い従来の住民が減少し、住民同士の関係が希薄化しているという共通の問題点が存在する
- ・買い物の課題を抱えている高齢者がおり、配送サービスのあるスーパーが増えている。今後スーパーとのつながりも必要になる
- ・スマホを使いこなす高齢者が増え、今後ネットショッピングやオンライン手続き等のスマホ相談が増えてくると予想されるため、対応を考える必要がある

5. 取組み報告

・京橋地域では広報紙の作成やマップ作りを通じて「ゆるっとつながるサロン」というツキチカ！での居場所づくりに取り組む。今後は広報紙を通じてイベントの開催や報告を行なう予定。これまで「ゆるっとつながる」ことをテーマに取り組んできたが、サロンという場所に視覚的な媒体である広報紙やYouTubeが連動することで、メンバー側もやりがいや充実感をより得られると考えている。

・日本橋地域では協議体メンバーと地域住民の意見を集約し、「歩いてつながる 浜町エリアマップ」を作成した。浜町以外の中央区に住む方々にも広く利用していただきたいと考えている。このマップを通じて、高齢者と協議体メンバーとのつながりが生まれたことを実感した。今後も浜町エリアの活性化に向けて、高齢者の方々を支援していく。

- ・月島地域では、晴海エリアのマップ作成を検討している。地域によって求められるものが異なるため、通いの場の高齢者にヒアリングするなどして実際に利用する人の声を集約したい。

- ・浜町エリアマップの発行部数、配架場所、開拓方法は？

→約 150 部。各メンバーに 10 部程度配布。通いの場やクリニックなどメンバーが直接交渉して配架してもらった。

●スマホ

- ・スマサポまつりについて、高齢者からのスマホ相談となるとあれもこれも聞きたいと質問が多くなることもあると思われるがどう対応したか

→メンバーの他、スマホささえ隊も対応にあたっており相談体制は十分に整っていた。時間についても余裕があったため制限せずに対応した。対応方法については今後協議体メンバーで検討していきたい。

- ・スマサポまつり参加者はデジタル技術に対して積極的であった。今後、高齢者がスマートフォンを日常的に使用することが一般化する可能性が高いため、スマサポまつりなどの相談会で対応していきたい。

●買い物

- ・買い物に困難を抱える人々が多くいるため、ネットショッピングを案内したいが、個人情報やセキュリティの問題が懸念されており、これが利用をためらわせる要因となっている。重い荷物を自宅の玄関まで届けてくれるサービスがあれば、もっと買い物がしやすいのでは

→これからの世代では高齢者でもスマートフォンを使用するのが一般的になると考えられ、ネットスーパーも普及していくと思われる。

多くのスーパーでは、高齢者向けのサービスが充実しており、選んだ商品を自宅まで無料で配送するサービスを提供しているところもある。このようなサービスの情報提供や、地域のスーパーとの連携が今後ますます重要になると考えられ、高齢者がより快適に買い物を楽しむための支援が求められている。

●協議体メンバーの交代について

- ・協議体メンバーが固定されていることで視点が偏っているのではないかという懸念がある。メンバーの交代が必要なのか、または新たなメンバーを追加するのが良いか。メンバー入れ替えによって意見や流れが変化したことから、メンバー交代が活性化に寄与する可能性は感じている。しかし同時に、長い間活動を続けてきたことで培った知識も重要なので、他の地域の協議体がどのように運営されているかも気になる。

●社会資源の偏在と移動促進

- ・晴海についてまだ未開発の場所が多く、社会資源も少ない。高齢者にとっては住みにくいような場所だが、比較的元気な高齢者が多く、活動できる場を求めている。そういった方に今後どう情報提供していくのが課題。

- ・児童館では地域の情報に詳しく、ネットワークを持っている「地域さん」という方とのつながりがある。各地域に存在しており、お願いすれば協力してくれるかもしれない。

- ・晴海から新たに移住してきた住民が地域資源を探しているが、晴海自体が整っていないため、勝どきや月島、佃を紹介する際に距離の問題が浮上。地域間のつながりを強化するためには、歩いてアクセスできることが重要である。各地域で独自のイベントを開催することも提案され、他地域か

らの参加者を呼び込むことが期待される。

- ・高齢者の移動を促進するために、敬老館同士を結ぶシャトルバスの導入するのがよいのでは？これにより移動範囲が広がる。こうした取り組みが進むことで、地域間の交流が活発化することが期待される。

- ・息子に呼び寄せられて晴海などのマンションに引っ越してきた高齢者がいる。マンションだと隣人とのつながりが薄く、支援が必要な場合でも把握しにくい。ケアマネやおとセンとつながっていれば実態が把握できるが、支援が必要な高齢者の中には関わりを持つ人が少ない層も存在し、これらの人々へのアプローチが課題となっている。特に災害時には支援が困難になるため、対策が求められる。

以上